

同窓会 (昭和三三年～平成三三年)

歴代同窓会長

- 初代会長 今泉博司(高校三回生)
昭和三年四月〜昭和三年八月
- 第二代会長 高橋力子(実女一四回生)
昭和三年八月〜昭和五年八月
- 第三代会長 菅原ヒサ(実女一〇回生)
昭和三年八月〜昭和四九年八月
- 第四代会長 及川源悦郎(高校三回生)
昭和四九年八月〜

同総会設立のころ

初代会長 今泉博司

春三月、会員の皆様方には、ご健勝でお過ごしのこととお慶び申し上げます。

会員の方々には、それぞれの職場で、学校で、あるいはご家庭で、水高出身者として頑張っておられることを会員名簿が新しく出来るたびにうれしく拝見いたしております。

同窓会も創立三〇周年を迎えて、母校水高もますます学業に、スポーツに力を入れられ、新聞に水高の字を見るたびに在校当時を思い出し、うれしく思っております。

昭和二〇年(終戦の年)私は旧制黒沢尻中学に入学しました。小学校の同級生は一ノ関と黒沢尻にわかれて進学しました。中学時代は晴耕雨読と勤労奉仕でしたが、八月の終戦で先生は教科書が使えないことから自習の多い、参考書

での勉強の一年生でした。

昭和二一年に学制改革の話の中で、旧制水沢中学校が現在の市役所地に開校され、水沢から一ノ関、黒沢尻中学への通学生が二年生として戻って、一年ぶりになつかしい顔がそろい男女共学が始まりました。

水中一年生は新しく募集されましたが、三年生、四年生は水沢商業、女学校の諸兄弟姉でした。初代校長は東京在住の河野光男先生、教頭は水沢で健在の後藤五郎先生でした。階段教室を始めたりして楽しい毎日でした。

学制改革で無試験で高校生になり、昭和二六年三月、無事卒業し、市内の会社に就職できました。

前段が長くなりましたが、同窓会設立当時にふれて見たいと思います。

あれは確か昭和三年の夏だったでしょうか、当時の水高の校長先生は安彦専一先生でした。

校長先生から会社に電話があり、相談があるので学校に来てほしいとのことでした。早速仕事を抜けて学校に向きました。今の高校の校舎での勉強の経験は全然ありませんでした。校舎(本館)は鉄筋コンクリートで立派で、残工事などが行われていました。私達は前小学校高等科の校舎と金ヶ崎からとか持って来た兵舎で、廊下との仕切りは障子の窓という校舎でした。

終戦直後のことです。

校長室で校長先生から同窓会設立の話相談されました。一緒に聞いたのは四回卒の伊藤剛雄さんでした。

いるものであり、広く散らばっている同窓生の情報交換の場として有意義な活動である。事務局は、水沢高等学校内に置いて同窓生職員が担当しているが、今後さらに同窓生の人数が増えてゆき、その管理もこれまで以上に大変なものになりそうである。これまでも、同窓生名簿の在籍異動は事務局で承って進めてきたが、データ管理に不慣れなこともあり、多くの方々にご迷惑やご不快な思いをさせることが多く、その改善が事務局の急務の課題であった。これに關しては、平成二三年度以降は同窓会名簿の管理を専門的に行えるように外部に委託することが、平成二二年度の同窓会総会で確認されたので、これまでのようになさままな齟齬を解消できる見込みである。

と会員の皆様のご健勝を祈念いたします。(昭六三年三月発行 同窓会報 第一七号による)

水沢高等学校同窓会の現況

これまでに有為の人材を輩出してきた本校は、平成二二年に創立百周年を迎え、卒業生が二万名を越える大きな集団となった。四〇年近く同窓会長として同窓会の発展と、母校の支援にご尽力いただいた及川源悦郎氏を中心として、副会長に鈴木慧氏、後藤康次氏、川嶋静夫氏、羽岡洋輔氏、芳沢基子氏、監事に鎌田卓也氏、佐藤利行氏の八人の方々に同窓会本部の役員をお願いしている。例年の同窓会総会を始めとして、水高育英会の運営や同窓会報の作成と発送、支部総会への出席など、精力的に活動していただいている。

各支部でも定例の総会や、周年記念行事への積極的な応援など同窓会組織として大きな機能を果たしている。現在、「盛岡」「北上」「江刺」「胆沢」「前沢」「一関」「仙台(在仙水高同窓会の名称)」「関東(水高関東地区同窓会の名称)」「名古屋」「関西」の各支部が活動をしている。

中でも盛岡支部は毎年七月に、在仙水高同窓会と水高関東地区同窓会は一年おきに定期総会を開催して、地域の同窓生の親睦を深めている。また、水高同窓会のホームページも立ち上げられていますが、これは関東地区同窓会の全面的なご協力のもとに開設・運営をいただいで

いるものであり、広く散らばっている同窓生の情報交換の場として有意義な活動である。事務局は、水沢高等学校内に置いて同窓生職員が担当しているが、今後さらに同窓生の人数が増えてゆき、その管理もこれまで以上に大変なものになりそうである。これまでも、同窓生名簿の在籍異動は事務局で承って進めてきたが、データ管理に不慣れなこともあり、多くの方々にご迷惑やご不快な思いをさせることが多く、その改善が事務局の急務の課題であった。これに關しては、平成二三年度以降は同窓会名簿の管理を専門的に行えるように外部に委託することが、平成二二年度の同窓会総会で確認されたので、これまでのようになさままな齟齬を解消できる見込みである。

さらに、今後所帯が大きくなるこの同窓会の課題としては、その管理運営上の費用についてである。現在の同窓会会計は現役生の負担によつてその大半がまかなわれている。しかし、年に一度の同窓会報の発送の際の負担増がじわじわと会計を圧迫している。収入は変わらない中で、年々同窓生が増え支出が増加するからである。この問題は喫緊の課題というわけではないが、三〇年、四〇年のスパンで見直しを立てて、何らかの解決策を模索していくことが、今後の大きな課題ということになる。

水沢高校も新しい時代に向って、新しい校舎も出来つつあり、グラウンドも広く、敷地は東北一の広さであり、先生方も立派な水高を作るよう頑張っている。だが、水高にないのは同窓会で、なんとか水高にも作ろうではないかということでした。

突然のことでしたが、盛一にも、一ノ関、黒高にも同窓会は中学から引き継がれてありました。

たしかに水高にないのはおかしい。しかし、考えてみれば水高だって前身の女学校があり、大正二年に実女一回卒の諸姉が居り、同窓会があった。そのまま引き継いでよいのではないかと思います。

校長先生は、終戦で高校となり、新しい学校に、新しい組織として作ってはどうかとの話であった。卒業生として同窓会の必要性は肯定しても否定の出来るものではなかった。

それから役員の話に移っていった。私達は二五歳で若い、女学校の延長でもよいのではないか。実質的に動ける若い方がよい。若者には若さがあっても経験がないので弱いか。

会長にと言われた時は、ビックリした。二五歳で未婚の若者には経験がないだけに世の中のことはわからないと辞退し、市内居住者の同級生の名前もあげ検討したが、結局会長に私、副会長に高女卒の菅原ヒサ先生と伊藤剛雄さんのメンバーでやることになったわけでした。

現及川源悦郎会長を中心に着々と事業を拡げ、水高の名をグローバルに拡げ、ますますの発展



同窓会総会写真



同窓会総会写真



同窓会総会写真



同窓会総会写真



関東支部同窓会風景



盛岡支部同窓会風景

**P
T
A
·
教
育
振
興
会**

PTA・教育振興会組織

- 会長 一名
- 副会長 四名（一学年委員長、二学年委員長、校長、同窓会長）
- 顧問 若干名
- 監事 二名
- 理事 会則に基づく人数

歴代PTA・教育振興会会長

（昭和四十五年以降）

- 菱谷 誠 治（昭和四五～昭和四七）
 - 亀梨 雄一郎（昭和四八）
 - 鎌田 真之助（昭和四九）
 - 佐藤 幹 寿（昭和五〇・昭和五四）
 - 高橋 勝 一（昭和五一）
 - 小野 佐 造（昭和五二～昭和五三）
 - 佐藤 四 郎（昭和五五）
 - 菅原 信 夫（昭和五六）
 - 鈴木 貞 蔵（昭和五七）
 - 河口 洋（昭和五八～昭和六一）
 - 千葉 勝 也（昭和六二）
 - 佐々木 隆 一（昭和六三）
 - 佐々木 勲（平成元）
 - 千葉 龍二郎（平成二～平成三）
 - 菊地 吉 彦（平成四～平成五）
 - 油井 孝 雄（平成六・平成一二）
- 平成一三

- 平成一六年 弘前大学（七三名参加）
- 平成一七年 東北大学・東北学院大学（八九名参加）
- 平成一八年 秋田大学・国際教養大学（九三名参加）
- 平成一九年 福島大学（二〇八名参加）
- 平成二〇年 山形大学（二四五名参加）
- 平成二一年 弘前大学（二四七名参加）
- 平成二二年 宮城教育大学・東北学院大学（一三〇名参加）

平成一〇年度を例に、研修旅行の様子を簡単に紹介する。

- 訪問地 岩手県立大学
- 日程 一〇月一六日～一七日（二泊二日）
- 参加者 二七名
- 行程 一〇月一六日

- 学校出発 一二時五〇分
- 岩手県立大学見学
- 宿泊 田沢湖高原温泉
- 一四時～一五時三〇分
- プラザホテル山麓荘
- 一七日
- 宿舎出発 八時三〇分
- 角館武家屋敷見学
- 九時三〇分～一一時
- 学校到着 一四時

- 今野 暁（平成七）
- 本田 明（平成八）
- 羽岡 洋 輔（平成九～平成一一）
- 長野 耕 定（平成一四）
- 柳田 善 雄（平成一五）
- 小野寺 宣 文（平成一六）
- 及川 整（平成一七）
- 木村 惠 也（平成一八）
- 高橋 晃 彦（平成一九）
- 森岡 範 之（平成二〇）
- 石川 浩 司（平成二一）
- 小沢 昌 記（平成二二）

専門部会設けて活動

平成三（一九九二）年度の定期総会でPTAの会則の改正が行われ、新たに専門部会規定が設けられた。

これは全国高校PTA連合会、県高校PTA連合会の潮流にあわせた処置で、所掌事項は次のとおりとなっている。

〔総務部会〕

会則、諸規定の運営に関すること、事業計画、予算、決算に関すること、諸会合の連絡・調整、その他。

〔健全育成部会〕

校外生活、交通安全、環境浄化活動の推進、その他健全育成に関すること。

〔進学対策部会〕

進学、就職並びに情報の収集、調査研究に関

PTA研修旅行に参加して

胆沢町 渡辺 和子

バスに乗り込むと懐かしい顔が「しばらく」と言う挨拶とともにすぐに会話が弾みなごやかな雰囲気の中、研修場所である岩手県立大学に到着しました。

虹のようなアーチ型の門をくぐると岩手山が正面に見えて広大な自然の中に、ゆったりとキャンパスが見えて来ました。

大学内は恵まれた環境と設備がすばらしくただ驚くばかりでした。

本音を言えば、余りに豪華すぎてだんだん複雑な気持ちになって来たのです。

私の感じ方が古いのかなあと思いながら、でも情報、福祉、看護学科がこれからの社会に役立つっていくと思うとこの様な設備は必要なんだと実感しました。

又、図書館が一般公開されていて貸し出しが自由に出来るのがうれしく、いつか子供を連れてもう一度来たいと思いました。

田沢湖高原ホテルでは、温泉と懇親会が楽しみでした。校長先生に子供の進路について親身に相談に乗っていただきましたし、初めての人達とも楽しく話が盛り上がり、大変にぎやかな懇親会でした。

高校は親が集まる行事が少なくなかなか知り合う機会がないのですが、この旅行はひとりでも参加してもおもしろく役員さんが気配りしてくれますので、すぐに溶け込めます。もっと多く

すること、その他進路対策に関すること。

〔調査広報委員会〕

高校PTAの在り方に関する事、調査広報活動の推進・強化に関する事、その他の調査広報活動。

PTA研修旅行

PTAの意義といえは、保護者と先生がふれあう場であり、情報交換の場でもある。

それを実感するのが、毎年秋に行われているPTA研修旅行だ。東北地方の大学を貸し切りバスで訪問し、その行程の中で親睦を深め、いろいろな情報をやりとりしながら、子どもたちの進路達成の一助としている。平成一〇年度までは一泊二日の旅行で、宿泊先では保護者と教職員とが相互に懇親を深めた。その後は、参加者を増やすため一日で往復する旅行行程に変更した。次のように、現在では一〇〇名を超す保護者の参加で実施している。

- 平成一〇年 岩手県立大学（一泊二日 二七名参加）
- 平成一一年 東北大学・東北学院大学（六七名参加）
- 平成一二年 岩手大学・盛岡大学（六〇名参加）
- 平成一三年 秋田大学・秋田県立大学（七〇名参加）
- 平成一四年 福島大学（六五名参加）
- 平成一五年 山形大学（七六名参加）



PTA・教育振興会総会の様子



PTA・教育振興会総会の様子



PTA研修旅行の様子



PTA研修旅行の様子

の人に知ってほしいと思います。私は今回の旅行で最後となりましたが、お陰で東北六県全て廻ることが出来ました。
 楽しかった思い出はもちろんですですが多くの人達と出会えた事が一番良かったと思っています。長い間ありがとうございました。

研修旅行へようこそ

水沢市 酒匂 由美子

空模様を気にしつつ、雨具持参でお昼過ぎに出発した今年度の研修大学は、岩手県立大学。随所に工夫の見られる大学だが、寒さ対策として、各講義棟・メディアセンター・体育館など施設全体が回廊で繋がれていて、外を歩かなくてもよいのは画期的。食堂・図書館などが、滝沢インターのそば、滝沢駅から1kmと交通の便がよいのだが、日常利用するには少々遠くて残念だ。現在はまだ学生数が少なく、ほとんど使われていないだろうと思う所まで清掃業者が入り、綺麗な大学をますます綺麗にしている。つい維持費が大変ですね。と聞いてしまったら、「こまめに清掃している方が結果として安くなるんです。」と、年末大掃除に賭けている私には、ちと耳の痛いお話。この大学、特徴のある学部なので、自分の学びたい分野があれば、是非行ってほしい大学だ。
 余談だが、後日私用で総合政策学部の先生方のお話を伺っていたら、四年後の一回生がどう

いう仕事に就くかでこの大学の評価が決まるからと、もう先のことまで心配し、且つ教育に熱が入っていた。結局、どういう企業（大学）にどれだけ入るかで、その大学（高校）を評価してしまっている自分自身を反省させられた。

次の研修先は田沢湖高原温泉。学校に行く機会の少ない高校では、クラスの子の名前も、親の顔ももちろん先生も担任以外殆ど知らない。くじ引きで隣り合わせになったAさんと「同じクラスだったんですねえ」の状態。でも同じ高校に通う子供を持つ似たような年代の人達のこと、すぐ打ち解けて、次に合ったらきつと、「どうも、どうも。」

翌日は、角館・横手と見学して二時半に帰水。充実した二日間だった。

研修旅行のよさは、行く機会のない施設に行ける、知らなかった人達と友達（ちよつとずうずうしいかな？）になれる、先生方のエンターティナーぶりを見られる、このことに尽きると思う。

私には次回がないのがとても残念だ。そのかわりに皆さんに次回からの参加をお勧めしたい。新発見がありますよ。

（PTA会報「飛龍」平成一〇年二月一八日発行より抜粋）



PTA研修旅行の様子



PTA研修旅行の様子